

トルエン取扱いマニュアル

人体への影響

- 液体でも蒸気でも皮膚や粘膜（目、鼻、のど等）を刺激する
- 繰り返し皮膚に触れると、皮膚の脂肪を溶かし、皮膚の毛穴などから吸収しやすくなる
- トルエンで手を洗ったり、拭いてはいけない
- 吸入した場合には、低濃度でも頭痛、めまいが起きることがあり、高濃度では麻酔作用があり意識がなくなることがある

性質と危険性

- 無色、芳香性の液体で水に溶けない
- 常温でも揮発しやすく、引火性がある
- **タバコなど付近は火気厳禁**
- 水より軽いので、下水に流すと水面に広がるので危険
- 蒸気は空気より重いので、**低い場所に高濃度で溜まる**ことがある
- 空気と混合すると**爆発性**の混合ガスができ極めて危険
- シンナーの成分として、他の有機溶剤（キシレンなど）との混合物のことが多い



容器などのレッテルの表示を注意してみる

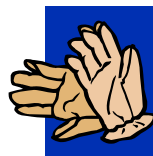
取扱い及び保管上の注意

トルエン取扱い作業

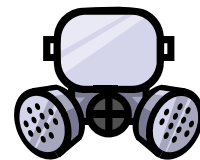
- 作業を始める前にまず換気装置を動かす
- 当日の作業に必要な量だけ持ち込む
- 直射日光の当たらない涼しい場所におく
- 容器(缶)は使用の都度フタをする
- 床にこぼした場合は、水洗せず、ウエス等で拭き取り、フタ付容器に入れる
- 有機溶剤等が付着したウエスや紙はフタ付容器に入れ密閉する
- 余った有機溶剤は下水に流さない
- 空になった容器は、フタをして定められた場所に置く
- トルエンなど有機溶剤作業の近くで、溶接、サンダー掛け等火花のでる作業を行わない

保護具は必要に応じて使用

- 有機ガス用防毒マスクを装着して作業をする
- 手で扱う場合には、トルエンが浸透しない有機溶剤用保護手袋を使用すること
- 皮膚は露出しないように専用の作業衣または保護衣を着用し、保護めがねを用いること



有機溶剤用保護手袋



有機ガス用防毒マスク

分からないことは、作業主任者に尋ねること

応急措置

- 気分が悪くなった場合には、直ちに作業を中止し避難する。意識を失った場合は119番通報する
- 飲み込んだ場合は、医療機関に受診させトルエンを飲んだことを告げさせる
- 目に入った場合、水道水などの流水で、眼をよく開けて15分以上洗い、痛みが残ったり、見えにくい時は必ず眼科医に受診させる
- 皮膚に付いた場合、汚染された衣服、靴を脱がせ、付着部位を石鹼水、温水でよく洗い、皮膚に症状があったり、気分の悪い場合は、医療機関に受診させる

すぐに医療機関！！



火災時の対応

- 消火には、粉末消火器、炭酸ガス消火器、泡消火器を用いる
- 水をかけると、かえって火を広げるので水はかけない
- 火災の際、多量の黒煙と有害な一酸化炭素等が発生するので注意を要する
- ただちに消防署（119番）に通報する

